

長大祭2015

医学部生も参加した長大祭!!
参加されている皆さん取材させていただきました!!



屋台

学園祭といえば、やはり屋台!!いくつかの部活の皆さんが出店されていました。ポップコーンやはしまき、フランクフルトのような定番のものや、ハリケーンポテトなど聞いただけではわからないユニークなものまで商品として扱っていました。



バド部の一年生たち



訪問販売する硬テ部



焼き鳥を焼く軟テ部



?ポーズの剣道部

軽音LIVE

会場のあるものは足でリズムをとり、あるものは手や体を振り感情の高ぶりを示す。そしてあるものはその高ぶりでステージにあがる。それをステージ上のバンドマン達が先導する。彼らはいっしょかーつになり、最高の時間を過ごした。



ジャグリング

正門をくぐってすぐのロータリーで、子供たちだけでなく、大人までも足をとめてしまう魔法のような技を繰り出していた。何が驚くべきかわからないが、驚くべきことが目の前でおこっていた。



キャンドル点灯会

日が沈み夜風も寒くなってきた頃、大学の隅であたたかい光を見つけた。たくさんの医学部美術部お手製のキャンドル達。見とれて時を忘れて眺めていた人も少なからずいたであろう。



西医体男子バレー部準優勝



この結果を残すまで全てが順調にいったわけてありませんでした。九山前に神戸にて行われた大会では一点の重さに泣き得点差で予選リーグで敗退を悔しい思いをしましたし、西医前の練習試合でも自分たちのやりたいプレーができず負けることもありチームとしてもモヤモヤし、辛い時期もありました。しかし、そんな時でもチームみんなが大会に向けて同じ方向を向き真摯にプレーに取り組んだおかげで長大らしいプレーをすることができたような成績を残すことができました。実は長大は西日本の中でも一番と言っているほど声を出し一点一点を喜ぶチームです。それは練習の時から意識しており、学年問わずチーム

今年の夏に大阪で行われた西医体男子バレー部は準優勝することができました。春に行われた九山優勝から引き続き結果を残すことができ大変嬉しく思います。



医学部救急医療系サークルFLANが全日本医学生CPR選手権大会、第3位!!!

去る10月17日(土曜)、「第1回全日本医学生CPR選手権大会」にて、我が長崎大学FLANが第3位という好成績を残しました!本大会は、全国の医学部学生の心肺蘇生技能向上を目的に、日本救急学会主催で今年からスタートした大会です。1チーム5名で、胸骨圧迫+人工呼吸の手法で争います。評価は人ではなく、機械によって客観的に行われます。試合は、3ゲームあり、1名・1名・3名に分かれ、それぞれ2分・2分・10分間の演技を行います。8月、全国6カ所にて各ブロック予選が行われ、長崎大学FLANを含む、上位15校が決勝戦へコマを進めました。胸骨圧迫はやつたことのある人なら分かると思いますが、実はかなりの体力を使わなければならないのです。2分間はかなり気が遠くなります。FLANは見事なパフォーマンスとチームワークで見事な第3位となりました!同じ大学医学部に所属する

私たちにとっても、嬉しいニュースです。



第10回定期演奏会を終えて

Nagasaki University Medical Chamber Orchestra



長崎大学医学部室内合奏団は2006年に創部されて以来、これまで県内の各地の病院や老人施設、各種イベントなどで演奏会を行ってきました。毎年11月に行われる定期演奏会は、今年で第10回という記念すべき節目の年を迎えました。今回の記事では、『第10回定期演奏会』について当日の様子をお伝えしたいと思います。

『第10回定期演奏会』は11月7日にメルカ築町ホールにて執り行われ、演奏会当日はおよそ260名のおお客様にご来場いただきました。このことは事前に用意していた座席が足りなくなってしまうという嬉しいハプニングでもありました。



受付は2年生が中心となって自分たちで行いました。開演前、どのくらいのお客さんに来ていただけるかそわそわしています。笑



今年の演奏会から、曲目にはクラシックだけでなく映画音楽などお客様に馴染みの深い曲も取り入れられました。また、衣装も曲にあった色・デザインのドレスで演奏を行い、聴いても見ても楽しめる演奏会になるように工夫しました。



文責：松本 学
こんにちは。学友会広報部の松本です。

今回は僕の所属する部活でもある長崎大学医学部室内合奏団の「第10回定期演奏会」の様子についてお伝えさせていただきます。



室内楽合奏団の演奏会では、オーケストラとは異なり、総勢約50名の部員の中から、色々なアンサンブルを組み、バロック音楽～映画音楽まで幅広いジャンルの音楽を演奏します。

写真はヴィヴァルディ「四季」より「冬」の演奏中の一枚です。violin solo は3名の部員が1楽章ごと演奏し、それぞれの個性や音色の違いも楽しめるものとなりました。



卒団される卒業生の先輩方へ花束の贈呈です。今まで室内合奏団を引っ張っていただき本当にありがとうございました。



今年で卒団となる卒業生の先輩方にも数多く出演していただきました。最後までお世話になった先輩方と一緒に演奏することができ、大変嬉しく思っています。



演奏会の最後には、全部員による全体合奏を行いました。曲は第10回の定期演奏会を迎えることができたことに感謝の意味をこめてエルガーの「威風堂々」を演奏しました。

第10回定期演奏会を開催するにあたり、とても多くの方のご協力を賜りました。ここにお礼申し上げます。

これからもたくさんの方に幸せな音楽が届けるよう頑張ります!!

～定期演奏会を終えて～



2015年11月7日に第10回定期演奏会を開催しました。室内合奏団にとって、年に1度のビッグイベントであり、今年は記念すべき10回目の演奏会ということで、懸ける想いにも大きなものがありました。今年は難曲「威風堂々」に挑戦してみたり、ドレスやおそろいの衣装を用意してみたり、学部内で宣伝コンサートを行ってみたりと、いろいろ新しいことにも挑戦しました。本番はありがたいことに、席が溢れるほどのお客様にご来場いただき、あまりの嬉しさと緊張で泣きそうになりました!本当にありがとうございました。これからも室内合奏団は長崎の皆様に愛される存在になれるよう、がんばっていくので応援よろしくお願いします!!

医学部室内楽部 部長 淵野萌子

軟式テニス男子

4年生 宮崎修平



ソフトテニス部です!今年度の西医体は3位という結果でしたが、OBOGの先生方をはじめとするたくさんの方々の支えがあったからこそ、3位という結果をもぎ取ることができました。チームはまだまだ発展途上。これからも精進していきます!

フットサル女子

3年 田中希実



3月の九州では準優勝だったのでオールメダルでは優勝を狙っていましたが、結果は4位でした。しかし、チーム全員が団結して勝ち取った4位なのでとても満足しています。団結力はどのチームにも負けていなかったと思います。またこのチームでキャプテンできたことが私の誇りです。医学部フットサル部が今後も活躍できるようにチーム一丸となって練習に励んでいきたいです。

水泳部

男子 3年 白髭知之



長崎大学医学部水泳部主将の白髭知之です。先日大阪のみはやプールにて行われた西医体では男子400mメドレーで優勝を果たし、総合では男女共に6位という結果を残すことができました。連覇の夢は叶いませんでしたが、多くの部員が自己ベストを更新でき、良い大会になったと思います。応援してくださいありがとうございました。これからも応援のほど、よろしくお願い致します。

女子 2年 千代島希



私たち水泳部は、夏の大会に向け練習を重ねていました。今回、ベスト8入りという功績を残すことができ、嬉しく思っています。個人個人がそれぞれが大会に対してのベストを尽くせたのだと考えています。次の大会に向けて気持ちを一新し、また頑張っていきます。

剣道男子

4年 鈴木文隆



我々剣道部は男子団体が2年ぶりの優勝、女子団体がベスト8という結果をおさめることが出来ました。日頃より先生方からご指導を賜り一層の技術の向上ができた他、普段の稽古から部員同士でお互いに切磋琢磨して行けたことが今回の結果につながったと思います。今後とも先生方におかれましては変わらずのご指導ご支援どうぞよろしくお願い致します。

硬式テニス男子

4年 塚本康二



今年の西医体では、去年に引き続きベスト8という結果でした。来年こそは、新主将の木下のもと、悲願の西医体優勝、そして九州3連覇を成し遂げてくれると信じています。多くの方にご支援をいただき、大変幸せな1年間でした。ありがとうございました。これからも硬式テニス部をよろしくお願いします。

卓球男子

4年 大内田 良真



今回の西医体は1年生も含めて新メンバーでの戦いとなり気合い十分で挑みました。不安もありましたが後輩の活躍があり、応援も味方につけ善戦できたと思います。みなやる気に満ち溢れているので来年はさらに成長し良い結果を残したいです。

バレー男子

4年 野本和宏



今年の夏に大阪で行われました西医体で男子バレー部は準優勝することができました。一丸となったこのチームで一試合でも多く戦い続けることができ、準優勝という結果を残せて大変嬉しく思います。OBOGの先生方からいただいた多くの応援本当にありがとうございました。

柔道女子

4年 坂山朋子



全医体は井上康生をはじめとする数々のオリンピック選手を輩出したことで有名な東海大学で行われました。OBの先生方、部員をはじめとする応援してくださったすべての方に大変感謝しています。医学部柔道部では、経験者、初心者問わず部員募集中ですので、柔道に興味がある方は是非声をかけてください。

弓道女子

3年 村山真由子



こんにちは!弓道女子を代表しまして村山です!今年の西医は9位と、惜しくも入賞することができませんでした。しかし、着実に力がついてきていることを実感できました!来年はこの結果に満足することなく、さらに良い記録を残せるようこれからも頑張ります。応援よろしくお願いします!

学友会便り

長崎大学医学部学友会広報部

みなさん、こんにちは。学友会広報部です。今回の学友会便りでは、2015年夏に行われた西日本医科学学生総合体育大会及び全日本医科学学生体育大会王座決定戦の結果をお知らせします。

西日本医科学学生総合体育大会 長崎大学 総合順位 7位

	男子	女子
硬式テニス	ベスト8進出	初戦敗退
軟式テニス	3位	二回戦敗退
サッカー	二回戦敗退	—
バスケットボール	二回戦敗退	一回戦敗退
バレーボール	準優勝	ベスト4進出
バドミントン	二回戦敗退	初戦敗退
弓道	23位	8位
卓球	8位	ベスト16進出
ボート	団体 6位 舵手付きフォア 3位	—
ラグビー	初戦敗退	—
水泳	6位	6位
剣道	優勝	ベスト8進出

全日本医科学学生体育大会王座決定戦

	男子	女子
フットサル	決勝リーグ進出	4位

選手の声 (Best8入り 有志の方々)

ボート

4年 尾崎諒史



今年こそはと臨んだ西医体でしたが、またしても優勝にはあと一步及びませんでした。悔しい気持ちもありますが、最高のパフォーマンスを發揮しての3位という結果には満足しています。大会に出場するに当たり、ご支援、ご声援をいただきました皆様に改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

バレー女子

4年 白井さや香



こんにちは。女子バレー部元キャプテンの白井です。女バレーは今までに、西医体で最終日に残ったことがないということで、今年は「難波へ行く(=ベスト4進出)」を目標として掲げて毎日毎日練習に励んできたので、ベスト4止まりではありますが、この結果はとっても嬉しいです!!これからも、歴史をどんどん塗り替えていけるように頑張ります!

がイラク戦争でもなされていきました。2003年のSARS流行は、三月中旬ごろに香港、広東地方を中心として流行したSARSですが、当初から北京市での公式発表が二ヶ台であるのに対して、もつと多数の感染者がいるのではないかと噂が飛び交っていました。それが四月六日に、出張中であったフィンランド国籍の国際労働機関局長が、中国本土の最初の外国人の死者となったことで、外国人社会に不安が広がります。その二日後の八日に軍病院に勤務する医師が、T I M E紙に寄稿し「病院だけで公式発表感染者を上回る事実を暴露しました。その後二十日に公式に「感染者339名」当初の八倍以上の数字発表され北京市はパニックに、北京市長、衛生相が情報公開の不振を理由に更迭されます。同二十四日に医療機関が封鎖され、二十九日に日本外務省が北京市内の在留邦人に「帰国検討」勧告、三十日には北京市長代理が「同市が現在パニック状態であり、状況は依然深刻」と語り、翌月十一日に緊急援助隊が北京入りし、六月二十四日にWHOが北京の渡航延期勧告を解除し、事態は収束を見せました。この間の経緯を勝田先生はSARS五つのPと分類します。すなわちPanic、Paranoia、Politics、PTSDです。三月二十日からのPhobias期では先発の香港、広州で報道された感染者数四ヶ台に対し、北京の公式発表は二ヶ台と、もつといるのではないかと噂と、公式発表のいか離が疑心暗鬼を生みます。二十日からのPanic期では公式発表が一夜のうちに跳ね上がり、うわさが事実であったことが判明しました。在留邦人からの照会は殺到し、診療にも深刻な影響を及ぼします。外務省医務官であった勝田先生には日本人学校、日本人会、商工会などから次々と講演依頼が舞い込みます。この時地下鉄車内のマスク着用率は九十パーセントを超え、Phobia

に代表される「他者を肯定・守る」、他者を否定・批難し自己を守る人種・民族・患者差別流言等の「他者を否定」、不安を恐怖として明示・誇張などの「自分を否定」の四つのパターンがあります。このうち、他者を否定する対処法が曲者です。洋の東西を問わず人間は特定人物や集団を批判したり差別したりして自分の不安を緩和するということをやってきました。新型コロナウイルス流行時は感染者の発生した学校に脅迫まがいの電話が殺到し、自分の学校の制服を着て街に出れない高校生が発生しました。歴史に目を向ければ先住民族迫害、ハセンシ病差別、H I V差別など、人間には他者を否定して自分を守るという不安に抗する機構があることを啓発していくことが、この問題を防ぎつかけになるのかもしれない。誰かを差別したり、無視したり、遠ざけてみたりして考えたみて、心に手を当てて考えてみて、心はさあやがて不安なだけでありませんか。政治要因が障壁となる場合もあります。2012年のM E R A S流行の際、勝田先生は学者として、感染経路が特定されていた韓国に比べ、市中肺炎であったサウジアラビアからの流入に気を付けるべきだとメディアで述べたところ、ネット上で大バッシングを受けました。中には勝田先生の所属する関西福祉大学の母体が宗教団体であったことから、そこに絡めた批判や、勝田先生の下名前、吉彰は日本人ばかりではないなど事実無根の誹謗中傷も多かったといえます。今後皆さんもそれぞれの分野で専門家となり、意見を求められる場合も出てくるかもしれません。その際にいかに情報を発信していくか今のうちに考えてみていいかもしれません。

今回の開催は来年春を予定しています。テーマも日時もまだ未決定ですが、興味のある方は参加を考えてみてはいかがでしょうか。

世間から見ると、勉強ばかりしているように思われがちな医学部生。しかし、実はいろんなことに手を出しています！この特集ではちょっと変わった面白い活動を行っている学生さんを取材しています。

学生献血推進ボランティア 特集記事

長崎大学医学部生、実はこんなこともやっています!!



(左から、山本シェウ・DJ Mark・熊谷知香・スタッフ・NONSTYLE)



(ブースの様子)

1. まず学生献血ボランティアについて簡単に教えてください。

学生献血推進ボランティアとは、特に同世代の若年層を対象に積極的な献血を呼びかけ、献血の大切さを伝える活動を行っているボランティア団体です。全国各地に学生献血推進ボランティア団体があり、現在、総勢約6,300名が活動しています。

2. 熊谷さんが、学生献血ボランティアに入った経緯を教えてください。

私の命は、献血をしてくださった沢山の方々によって助けていただいた命なんです。というのも、14歳の時に急性リンパ性白血病を発病して、抗がん剤治療を行うために長崎大学病院に1年半入院しました。その際に抗がん剤の副作用で正常に血液をつくれず常にひどい貧血になり、呼吸をするだけでも辛い状態にありました。そんな時でした、私が輸血を受けたのは、この記事を書くにあたって主治医の先生にお伺いしたところ、私は闘病中に38回もの輸血をいただいたいました。これは、約年間4人分の血液量を意味し、私がどれだけ多くの方に支えられて生きてきたかを教えてくれます。病気を乗り越えた今では、今度は私が病気を闘っている人の支えになりたいと思っています。

3. 献血の現状について教えてください。

現在はまだまだ多くの方が献血にご協力してくださっているのですが、病気の治療に必要な血液を患者さんのもとへ安定してお届けできていないのが深刻化しており、このままだと少子高齢化が進んだ約10年後の2027年には、輸血用血液製剤の需要を満たすのに約85万人分の献血が不足するという試算結果も出ています。

4. 「Love2015」ではどのような活動をされたのですか？

日本赤十字社が行う「Love in Action」プロジェクトとしては、ブースとステージの両方で参加させていただきました。ブースでは、長崎の学生献血推進ボランティアもお手伝いし、献血に関するアンケートを実施しました。子供や学生の方まで多くの人達が快くご協力してくださって、大変活気のあるコーナーとなりました。

5. お忙しい中、ラジオDJ山本シェウさんから医学科の皆さんに向けてメッセージをいただきました！

どうも！初めまして！ラジオDJの山本シェウです！僕はね、男の顔したただのお節介な親戚のおばちゃんってみんなから言われてます。ですから、皆さんのことも勝手に会ってなくても「シンセキ」だと思っています。「シンセキ」は一つです。僕たちが一番大切にせなあかんこと、この世の中の全ての意味は命のためにあります。さらに、その命は幸せであること、命の意味

6. 最後に熊谷さんから自由になんて言ってます！

献血にご協力してくださっている方は、自分が特別すごいことをしているという実感はないかもしれませんが、皆さん一人ひとりに誰かの命を救う力があります。皆さんの血液が、今の時も病気を闘っている皆さんの生きる力となっています。若者の献血離れが心配されています。献血はまだまだからこそ、私たち長大医学生みんなのパワーで献血の輪を広げていきましょう！学生献血推進ボランティアと一緒に活動していただくのも大歓迎です！学生献血推進ボランティアは、毎週水曜日18時から、はまのまちの献血ルームにて活動しております。少しでも興味のある方はぜひ遊びに来てくださいます。

学生献血推進ボランティアについて
詳しくはこちらへ
<http://gaku-ken.jp/index.html#about>

医学生のための九州法医学合同ワークショップ



医学部に入った皆さんにとって「法医学」とはどんな存在でしょうか？昔から法医学をテーマにしたドラマや作品があり、一般にも知られる分野となっていますが、医学生から見ても難解、かつ、シリアスで、近づきがたく、多くの医学生からは「数ある科目のうちの一ひとつ」と位置付けられているかもしれません。

しかし、医師はご遺族の要求があれば、その方の死亡診断書を書かなくてはなりません。あるいは、一人暮らしの部屋の中で亡くなったという人の検案を依頼されることもあるかもしれません。臨床医を目指す医学生にとっても、法医学は臨床にはあまり関係がない……と片付けることができない分野なのです。

「医学生のための九州法医学合同ワークショップ」(以下、ワークショップ)は、法医学という分野にもっと気軽に興味を持ってほしい、という狙いから始まりました。今

回で6回目の開催。文部科学省の支援事業の一つとして、長崎大学・福岡大学・久留米大学の三大学の医学部法医学教室が共催しています。今回は、2015年11月21日～22日に長崎大学坂本キャンパスで開催されたワークショップの様子をお伝えします。

ワークショップはタイトルこそ「九州合同」と銘打っていますが、北海道から南は沖縄まで、東西南北の100名を超える医学生が長崎に集まっていました。学年も1年生から6年生、大学院生と様々です。著名な教授や先生方も同様に全国からいらして、法医学を学ぶ場として全国レベルの会と言えるでしょう。

このワークショップの大きな目玉のひとつが、1日目に出席される「症例クイズ」と、それに対する2日目のグループ発表です。今年も例年のごとく、「突然死の症例」と「腐乱死体」の2つの症例について、振り分けられた

グループごとに死因や死亡推定時刻などを検討しました。グループは1グループ20名程度で、各大学の学生がバランスよく散らばるように組んでありました。各グループの部屋を回ってみると、数人が立ち上がって白熱した議論をしているグループあり、リーダー・書記など役割を決めて効率的に進めているグループあり、教科書や自作プリントをひっくり返し合っているグループあり……と、実際にグループの個性が感じられました。2日目の発表では、同じ症例に対し、病死と判断したグループと他殺と判断したグループがあり、なかなか一筋縄ではいかない良問だったようです。この症例クイズは法医学の授業を終えている4年生以上を対象で、3年生以下の参加者には別会場で法医学の紹介や、長崎大学法医学教室の見学ツアーが行われました。特に、3年生の部屋は盛り上がりつつあり、自己紹介だけで時間が終了してしまったなんてウワサも……。

さて、今回のワークショップの目玉が、「他領域から見た法医学」でした。「行政」「警察」「弁護士」「検事」という、法医学と関わりが深い4つの領域の演者から、法医学との接点についてお話しいただく企画でした。

「行政」の立場からは、東京都福祉保健局の小竹桃子先生が、東京都における死因究明制度についてお話しされました。東京都には監察医制度がありません。終戦後、特に詳

しく調べられることのないまま「餓死」とされる人が多かった時代に、「本当にこの人たちは餓死したのか？」という社会的疑問から、東京大学と慶応大学に検案が委託されたところから、監察医制度がスタートしたそうです。行政が行う行政解剖の意義は大きく二つあります。まず、死因統計の正確性の確保、そして、犯罪死の見逃し防止です。二点目については、事故・自殺に見せかけた殺人事件はもちろん、最近ではガス周辺機器メーカーの不良製品による死亡事故が記憶に新しいところですが、東京都監察医務院には常勤医が12名、非常勤が55名もいるそうです。検案は年13000件、解剖は年20000件を超えるため、人手不足どころか、確かに、一日換算すると授けられる最後の医療レベルの施設として、「人を受ける最後の医療」である法医学が利用されているのです。

「警察」の立場からは、長崎県警察本部元検視官室長である中根純一郎警視より、長崎大学法医学教室との連携について教えていただきました。長崎県では死者が年16000人おり、そのうち15000体強が検視されるそうです。長崎大学では「研究員」としてポストを得た検視官付きの方がCT撮影を行い、医師に読影・最終診断を依頼するなどして、依拠するなどして、いまもなかなか珍しい連携だそうですが、ご遺体の死因究明を目的とした取り組みです。中根警視は、

CTは今では検視に不可欠なものであるとお話しされ、「検視官のCT中毒」という池松教授の言葉を自ら紹介されています。事実、CTからの情報は死因判定の正確性向上のみならず、DNAや菌型に次ぐ新たな身元確認方法となっているそうです。

「弁護士」の立場からは飯田直樹法律事務所のは飯田直樹先生、「検事」の立場からは長崎地方検察庁の竹山翔梧検事が、それぞれのこれまでの経験と法医学との接点についてお話しくださいました。飯田先生は、被害者遺族が一番知りたいのは、「事件がなぜ起こったのか」「いったいどんな事件だったのか」であることと教えてくださいました。もし法医学がなければ、まさに死に口なし裁判は被告に有利になってしまうのです。池松教授が被害者側の証人として出廷し、法医学的に事件の詳細を明らかにした結果、それが事実認定された被告の罪が認められた、という実際の裁判のお話は、社会や私たちが一般市民にとつての法医学の意義深さを感じさせてくれました。



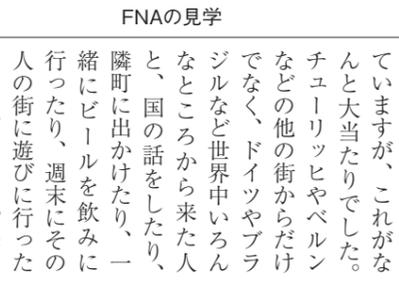
一方、法医学は検事の方とも関わりがあります。竹山検事のお言葉「借れば、司法解剖は捜査の出発点」だそうです。被疑者だけでなく目撃者を含め、生きて

うことがあるし、嘘もつくことができます。しかし、ご遺体・被害者の所見は客観的事実である、ということ……竹山検事はこれを常に念頭に置いて、関係者の証言による先入観を持たず、客観的事実を踏まえて捜査上の判断するよう努めておられるとのことでした。



ホテルのルームメイトと隣の町のアスコナにて

が、先生の外来病理診断のお話に興味を引かれ、以前から勉強しに行きたいと思っていました。そして今回、機会に恵まれ、トビタテ留学ジャパンの奨学金プログラムを利用して、多少の紆余



FNAの見学

こんにちは。医学科4年の吉川と申します。今回僕の留学についてお話をさせていただく機会をいただいたので、それについて少しづつとら。

僕は現在、スイスのティチノ州立ロカルノ病理機関というところで、細胞病理診断のエキスパートのFranco F. J. 先生の指導の下、細胞診を主軸とした外来病理診断や分子病理診断について勉強しています。

僕は普段、病院の病理診断学科(いわゆる第二病理)の教室に通っていて、福岡先生を始めいろんな先生方に病理診断だとそれに関わる研究だとかについて教えて頂いています。ご存じの方も多と思いますが、病理診断科には国内外を問わず様々な大学や病院からいろんな方々が訪問されます。その中の一人

Franco先生もその中の一人です。今回僕は、先生のお話に興味を引かれ、以前から勉強しに行きたいと思っていました。そして今回、機会に恵まれ、トビタテ留学ジャパンの奨学金プログラムを利用して、多少の紆余



Madonna del Sassoとロカルノの街並み

念ながら寮のようなものがなかったのも、ユース・ホステルを利用しています。金銭的に少し苦しかったので2人用の相部屋を借りていますが、これがなんと大当たりでした。チューリッヒやベルンなどの他の街からだけでなく、ドイツやブラジルなど世界中いろんなところから来た人と、国の話をしたり、隣町に出かけたり、一緒にビールを飲みに行ったり、週末にその人の街に遊びに行ったりと思いのほか楽しかったです。今はお客さんも少ないので部屋を独占させてもらっています。そんな出来事のこと寂しいです笑。

あと、トビタテ留学ジャパンの活動の一環で日本発信活動もいろいろやっています。これまで、名刺配りならぬ扇子配りや、漢字ネーミング、着物で街歩きなどをやってきた。興味を持ってくださる人も結構多いので、なかなか楽しいです。積もる話もたくさんあるのですが、とりあえず今回はこのくらいで。日本に帰ってからも見かけたときにでも聞いてくださいな。

冬の長崎特集

こんにちは！今回も、前々回に引き続き長崎のおすすめスポットのコーナーです♡
今冬は暖冬と言われていますが、やはり寒くなりましたね。寒い冬に街ゆくイルミネーションを見ると暖かい気持ちになりますね❄️今回はキラキラした冬の長崎を紹介していきたいと思います (*^^*)

☆グラバー園・水辺の森公園

長崎で有名な観光地、グラバー園、長崎水辺の森公園周辺がイルミネーションで彩られます。

異国情緒溢れる伝統的建造物群のライトアップと共に、今年7月に世界遺産に決定した、「旧グラバー住宅」から世界三大夜景を一望できます！路面電車ですぐに行けるところなので、ぜひ気軽に足を運んでみてはいかがでしょうか。



☆長崎ランタンフェスティバル2016

中国の旧正月を祝う行事「春節祭」を起源とする、長崎の冬の一大風物詩「長崎ランタンフェスティバル」です。長崎新地中華街、湊公園、中央公園、眼鏡橋周辺、浜市・観光通りアーケードなど長崎市内の中心部に約15,000個にも及ぶランタン(中国提灯)や、大型オブジェが幻想的に飾られます。毎年、期間中は毎日各会場で、龍踊り、中国雑技、二胡演奏など、中国色豊かなイベントも行われています。今年度は、2月8日(月)～22日(月)に開催されるようです。他県からも沢山見に来られるお祭りなので、長崎にいる間にぜひ見に行かれてください (^^)



☆ハウステンボス

そして、長崎のテーマパークといえばここですね。光の王国、ハウステンボスです！昼は、オランダ風の街並みや四季折々の花を、夜は、世界最大級のイルミネーションを、といった昼夜で違った楽しみ方ができるところが魅力です。最近では、日本一の高さ66mから流れ落ちる大迫力の「光の滝」や、光の海へダイブする「光のバンジー ジャンプ」、「光と噴水の運河」といった新しいスポットが登場したそうです。ほかにも「光の宮殿」や「3Dプロジェクションマッピング」など見どころが沢山あります！



それではみなさん、イベント沢山な冬を楽しみ、お身体に気をつけてお過ごしください (*^^*)

ふわふわしっとり♡かんたんシフォンケーキ ~ココアとナッツのハーモニー~



- 材料(ホール1個分)
ホットケーキミックス(100g)、玉子(1個)、砂糖(30g)、サラダ油(50cc)、ココア粉(10g)、生クルミ(gは好みで)
- 仕上げ 粉砂糖(適量)
- 道具 ケーキ型、オープンシート

- 手順(作業時間 約15分)
- ①まず、オープンシートを180度で予熱しておきましょう。
- ②予熱が完了する間に、作業を行いましょう♪ケーキ型にオープンシートを敷きます。
- ③ボウルに卵を入れて割りほぐします。
- ④③に残りの材料を加えます。(生クルミは包丁ですこし砕いて使しましょう♪)
- ⑤生地がしっとりしてきたら、②で準備しておいた型に流し込みます。
- ⑥オープンの予熱が完了した後、180度で30分焼きます。
- ⑦焼きあがったケーキを型から外し、熱が冷めるまで待ちます。
- ⑧粉砂糖を上から散らして、出来上がり♡(イメージは粉雪♡)

○今回のお料理コーナーはバレンタイン編♪
みなさんの思いが、大切な人に伝わりますように♡

はじめてのレシピシリーズ

♡一人暮らしのお料理♡

「日々の感謝を伝えよう♡♡」
みなさん、新年あけましておめでとうござい
ます！今年も本コーナーを、どうぞよろしくお
願いいたします♪
さてさて、次にきたる一大イベントは、そう
♡ハッピーバレンタイン！いつもお世話になっ
ているお友達に、はたまた、大切なあの人に、
感謝の気持ちをこめて・・・。
ということ、今回のお料理コーナーはバレ
ンタイン編！(*^^*)
真心をたたくさんこめて、いざっ！

編集後記

今回は「長崎大学医学部生、こんなこともやっています!!」を担当しました、熊谷です。自分で自分にインタビューをするという大胆(?)な形式で自身の活動について掲載させてもらいました。

読者の皆さんも、みんなに知ってもらいたいニュースがありましたら、是非、私たち新聞部に声をかけて、どんどん「ぐびろが新聞」を活用してください♪ (熊谷知香)

今回は定期演奏会の記事と留学便りを担当しました！僕自身、今年も長崎のいろんな場所で演奏させていただきました、振り返るととても充実した1年間でした(室内合奏団、演奏依頼どしどし募集中です♪今回の新聞もたくさんの方の見所がありますので、楽しく読んでいただけたらと思います(松本字)

2015年は新聞部も新体制となりました！フレッシュなメンバーで紙面もどんどん変わっています。わたしの新聞部生活は残り少ないですが、まだまだいろんな記事を書いてみたいと思っています！ (市川宏美)

CBTも無事に終わり、年明けからは新カリキュラムで早まったポリクリが始まります。2016年も去年以上に充実した1年にしたいです！ (野本和宏)

長大祭にテストに大忙しの11、12月でした。今は色々落ち着いてこたつでぬくぬくしております(2016年も学生の活動紹介、おすすめスポットの記事を活発にしていきたいと思います！来年もよろしくお願ひします。 (萩野恵梨)

3年生は年内にテストも終わり、新年からはリサーチセミナーです。テスト期間低下していたQOLをしっかり取り戻していきたいところです。今回の精神科セミナーは、来年度です。しばらく先になりますが、また告知をしますので興味があったら是非参加してください！ (山本侑季)

クリスマスは試験と共に過ぎました、和田です(笑)毎日寒い日が続きますね！今日のお料理コーナーはバレンタイン版♡甘いお菓子で、元気いっぱい頑張ってくださいませ♪ (和田澄華)

今回は長大祭を担当させてもらいました。今年2015年はいろいろなことがありました。いいことも、わるいことも笑。
2016年はいいいことがたくさんあるよう日々頑張っていくことと思います。よろしくお願ひします！ (松島俊樹)